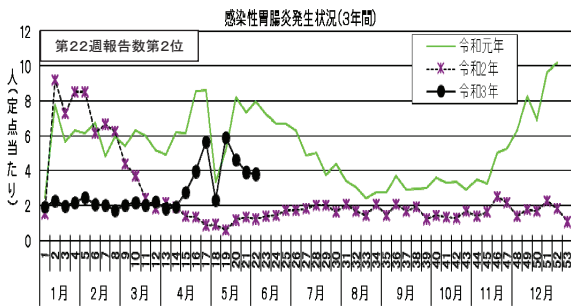
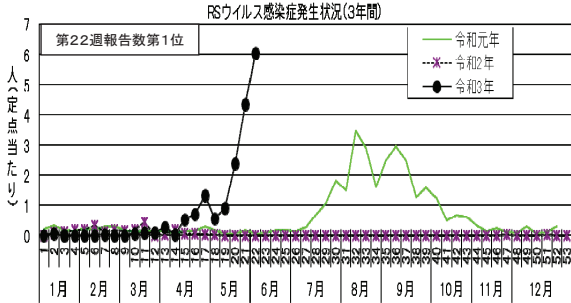


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年5月31日（月）～令和3年6月6日（日）〔令和3年第22週〕の感染症発生状況

第22週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)RSウイルス感染症 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は6.06人と前週（4.34人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.83人と前週（3.91人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.54人と前週（0.46人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



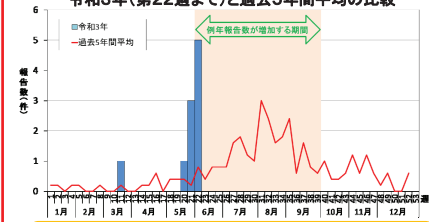
～腸管出血性大腸菌感染症の報告が増加しています～

腸管出血性大腸菌感染症は、例年6月以降に報告数の増加がみられますが、今年は全国的に5月中旬から増加し、川崎市においても第22週（5月31日～6月6日）までに、すでに10件の報告がありました。腸管出血性大腸菌は感染力が非常に強く、気温や湿度の上昇に伴い増殖が活発になるため、これからの季節は食材の下処理や加熱だけでなく、食品の保存にも注意が必要です。腸管出血性大腸菌感染症は、菌に汚染された食品の摂取による感染だけでなく、患者の便等に汚染された手や物を介した二次感染も起こります。今一度、食事前や排便後などの手洗いや消毒などの感染対策を見直しましょう。

腸管出血性大腸菌感染症とは？

- 【主な症状】**
- ・激しい腹痛、頻回の水様性下痢
 - ・著しい血便等
- 【合併症】**
- ・溶血性尿毒症候群（HUS）、脳症
- 【潜伏期間】**
- ・1～14日間（平均3～5日間）
- 【予防対策】**
- ・生野菜などの流水洗浄
 - ・食肉の十分な加熱（75℃で1分以上）
 - ・食事前や排便後の手洗い、消毒

川崎市における腸管出血性大腸菌感染症の発生状況
-令和3年（第22週まで）と過去5年間平均の比較-



※小児や高齢者は合併症を起しやすいため、激しい症状がある場合には直ちに医療機関を受診してください。

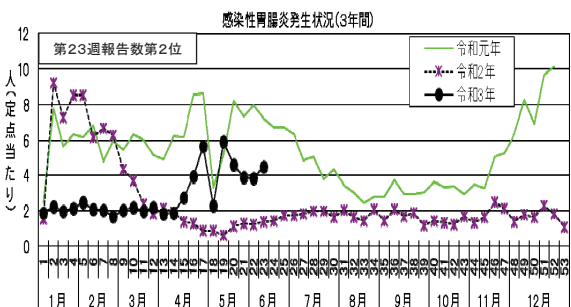
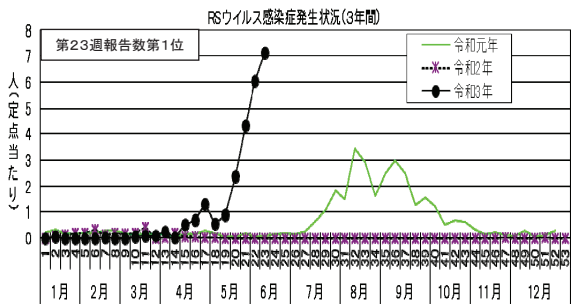
川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250
令和3年6月8日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年6月7日（月）～令和3年6月13日（日）〔令和3年第23週〕の感染症発生状況

第23週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)RSウイルス感染症 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は7.11人と前週（6.06人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.49人と前週（3.83人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.57人と前週（0.54人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



新型コロナワクチン接種～65歳未満の方にも接種券送付～

現在、新型コロナウイルスワクチンは65歳以上の方を対象とした接種が進められているところですが、川崎市では対象年齢を拡大し、6月14日（月）に60歳～64歳の方へワクチン接種券を発送しました。60歳未満の方には6月21日（月）以降、順次発送する予定となっています。

川崎市では、大規模接種会場及び各区の集団接種会場の計8か所の他、協力医療機関における個別接種も実施しています。集団接種会場の予約は、電話又は予約サイトにて受け付けています。ワクチンの種類により接種間隔や会場が異なるため、予約の際には御注意ください。

接種会場によるワクチンの違い

接種会場	集団接種会場 協力医療機関	大規模接種会場	年齢区分	発送日	予約開始日
製造会社	ファイザー社	モデルナ社	60歳～64歳	6月14日（月） 発送済み	6月19日（土） 午前8時30分～
ワクチンの種類	mRNA ワクチン		40歳～59歳	6月21日（月）	未定
接種方法	筋肉注射		12歳～39歳	6月28日（月）	未定
接種回数	2回接種		川崎市の他に、防衛省が設置する自衛隊大規模接種センターもありますが、複数の会場での予約は避け、万一、二重予約をした場合には必ずキャンセルの連絡をしてください。		
接種間隔	3週間	4週間	※2回目の接種予約は、1回目の接種時に接種場所でお取りいただけます。		
有効性	約95%	約94%			

新型コロナウイルスワクチン予約コールセンター：0120-654-478

新型コロナウイルスワクチン接種予約サイト：<https://v-yoyaku.jp/141305-kawasaki/>

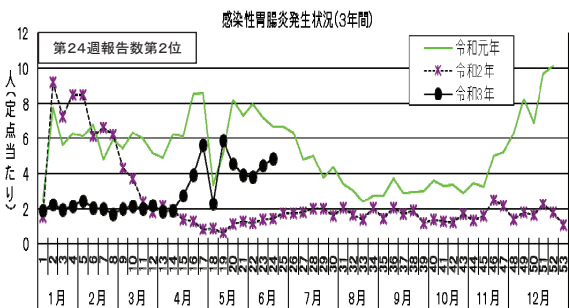
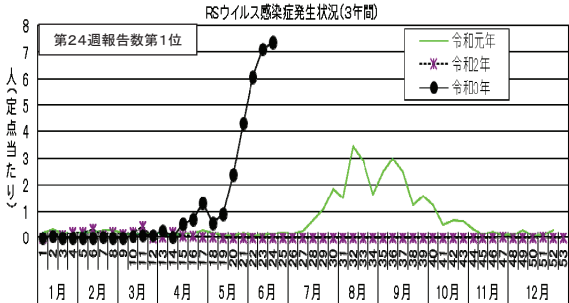
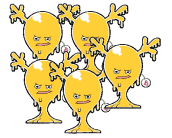
川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250
令和3年6月15日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年6月14日（月）～令和3年6月20日（日）〔令和3年第24週〕の感染症発生状況

第24週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)RSウイルス感染症 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は7.38人と前週(7.11人)から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.86人と前週(4.49人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.73人と前週(0.57人)から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。

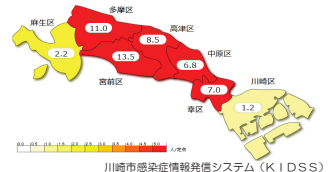


RSウイルス感染症の報告数が過去最多を更新！

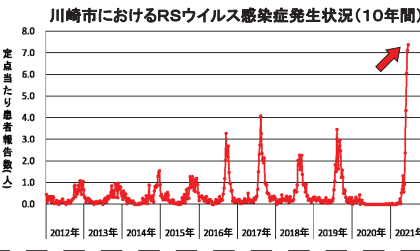
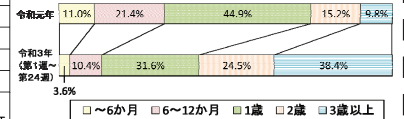
川崎市におけるRSウイルス感染症の定点当たり報告数は、令和3年第20週(5月17日～5月23日)の2.37人から毎週増加しており、第24週(6月14日～6月20日)には定点当たり7.38人と3週連続で過去最多を更新しました。特に、宮前区及び多摩区で報告が多くなっています。

RSウイルス感染症は、2歳までにほぼ100%の児が初感染を受けるといわれており、通常は0～2歳の乳幼児が報告の多くを占めます。昨年は年間を通して報告数が非常に少なく、流行もみられませんでした。今年は報告数の増加に加え、例年と比較して年長児の報告も多くみられますので、3歳以上のお子さんにも感染に御注意ください。

川崎市におけるRSウイルス感染症区別流行状況(令和3年第24週)



川崎市におけるRSウイルス年齢区別発生状況



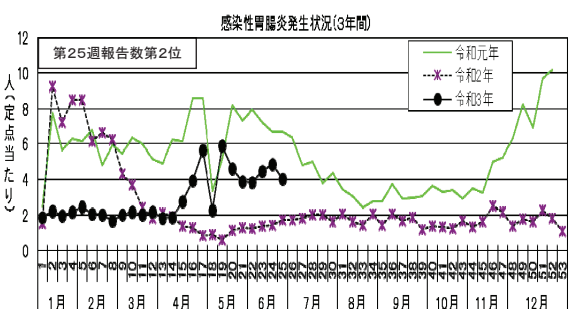
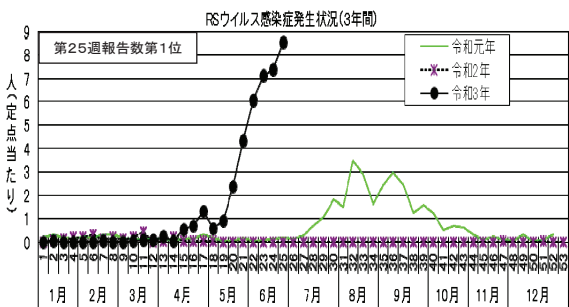
川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所) 問合せ先) 044-276-8250 令和3年6月22日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年6月21日（月）～令和3年6月27日（日）〔令和3年第25週〕の感染症発生状況

第25週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)RSウイルス感染症 2)感染性胃腸炎 3)突発性発しんでした。RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は8.54人と前週(7.38人)から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.05人と前週(4.86人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.51人と前週(0.43人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



新型コロナウイルス感染症～リバウンドに御注意を！～

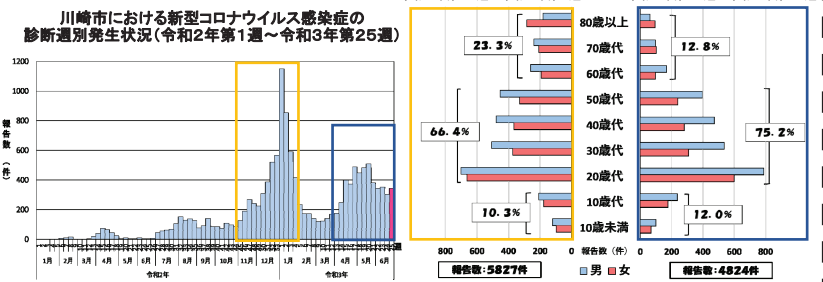
川崎市における新型コロナウイルス感染症の報告数は、令和3年5月中旬以降は減少傾向でしたが、第25週(6月21日～6月27日)は343件と再び増加に転じました。

直近の3か月と第3波に相当する令和2年11月～令和3年1月の3か月を比較すると、60歳代以上が23.3%から12.8%となり、高齢者の割合は減少しました。これに対し、20～50歳代の割合は66.4%から75.2%と増加しており、特に20歳代の男性の報告数が最も多くなっています。

感染のリバウンドを回避するためにも、若い世代の感染拡大防止は非常に重要となります。今一度、行動を見直し、感染対策を心がけましょう。

川崎市における新型コロナウイルス感染症の年齢階級別性別発生状況の時期による比較

令和2年第45週～令和3年第4週 令和3年第13週～令和3年第25週



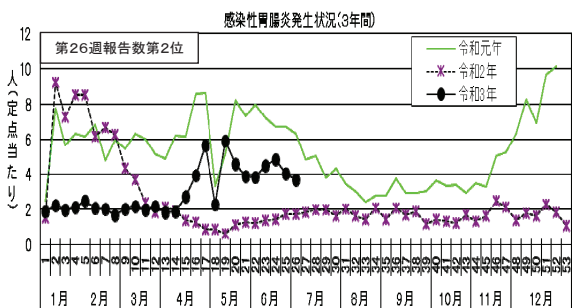
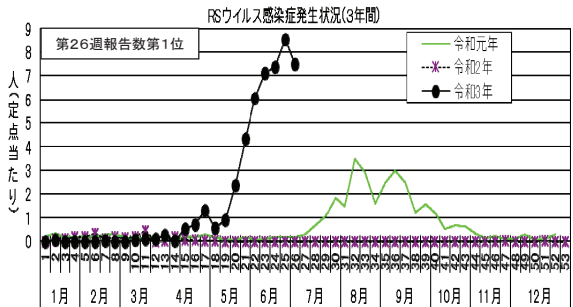
川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所) 問合せ先) 044-276-8250 令和3年6月29日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年6月28日(月)～令和3年7月4日(日)〔令和3年第26週〕の感染症発生状況

第26週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)RSウイルス感染症 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎・突発性発しんでした。RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は7.49人と前週(8.54人)から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.68人と前週(4.05人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.35人と前週(0.49人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.35人と前週(0.51人)から減少し、例年より低いレベルで推移しています。



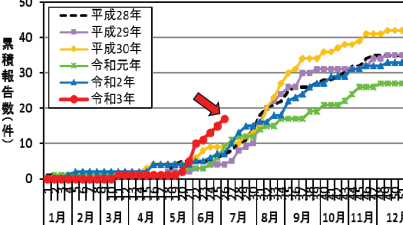
例年より増加しています！～腸管出血性大腸菌感染症～

腸管出血性大腸菌感染症は、強い毒素を産生する大腸菌を原因とし、激しい腹痛、頻回の水様性下痢や血便などの消化器症状を引き起こす感染症です。特に、小児や高齢者は溶血性尿毒症症候群(HUS)や脳症などの重症な合併症を起こすこともあるため、感染した場合には注意が必要です。

川崎市においては、例年より早い5月下旬から報告数が増加し、令和3年第26週(6月28日～7月4日)までに計17件の報告となり、過去5年間と比べて最多となっています。

例年、6月～9月にかけて気温の上昇とともに報告数が増加するため、食品の適切な取扱いや手洗いなどの予防対策を徹底しましょう。

川崎市における腸管出血性大腸菌感染症累積報告数の推移～令和3年と過去5年間の比較～



腸管出血性大腸菌感染症の予防対策

- 食中毒予防
 - ✓生で食べる野菜は流水でよく洗う。
 - ✓生肉や加熱不十分肉の喫食は避け、中心温度75℃1分以上で加熱する。
 - ✓肉を焼く際には、専用の器具(箸やトングなど)を使用する。
 - ✓まな板は、使用の都度洗剤でしっかり洗い、熱湯又は次亜塩素酸ナトリウム製剤で消毒する。
- 二次感染予防
 - ✓食事の前、排便後などは手洗い、手指消毒を徹底する。

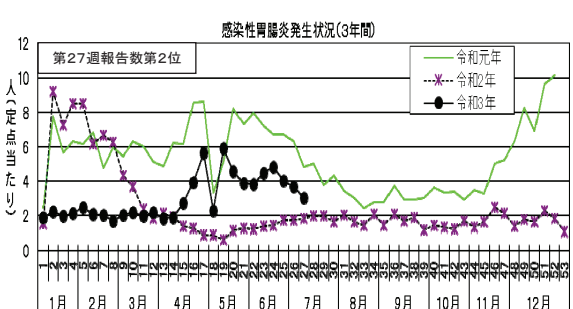
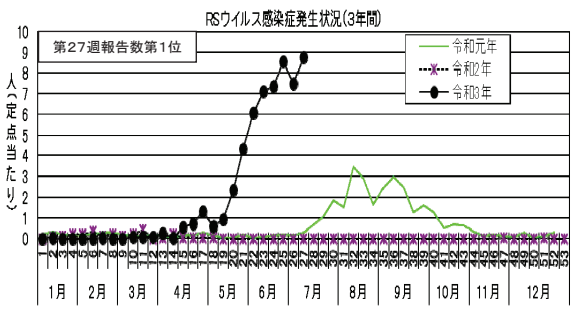
川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所) 令和3年7月6日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年7月5日(月)～令和3年7月11日(日)〔令和3年第27週〕の感染症発生状況

第27週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)RSウイルス感染症 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は8.76人と前週(7.49人)から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.05人と前週(3.68人)から減少し、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.86人と前週(0.35人)から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。



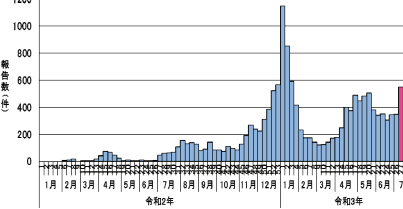
新型コロナウイルス感染症～20～30歳代の割合が増加！～

新型コロナウイルス感染症の報告数は都心部を中心に増加しており、川崎市においても、令和3年第27週(7月5日～7月11日)が549件と、7週ぶりに500件を超えました。

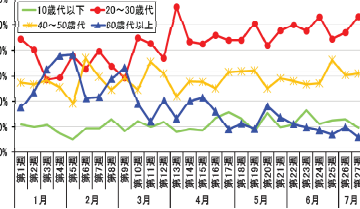
市内においては、60歳以上の割合が徐々に減少し、第23週(6月7日～6月13日)以降は全体の報告数の1割以下となり、4月12日から開始された高齢者向けのワクチン接種の効果が徐々に表れ始めていると推測されます。しかし、20～30歳代の割合は増加傾向で、第10週(3月8日～3月14日)以降は、全体の報告数の4～5割を占めています。

今後、報告数がさらに増加すると、今までは感染が抑えられていた小児への拡大も懸念されます。引き続き、大人数での集まりや会食などの密を避け、感染予防に努めましょう。

川崎市における新型コロナウイルス感染症の診断週別発生状況(令和2年第1週～令和3年第27週)



川崎市における新型コロナウイルス感染症の診断週別年齢区分別発生状況(令和3年第1週～第27週)



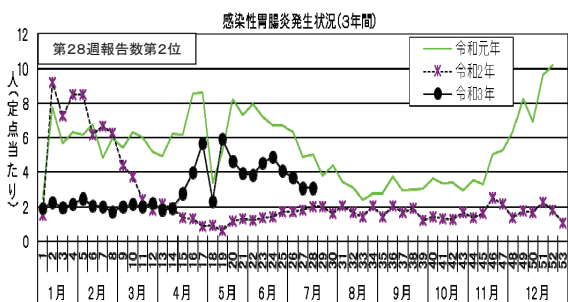
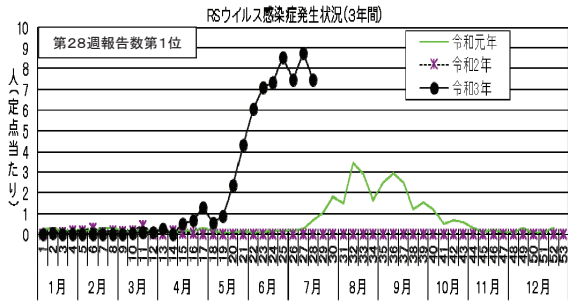
川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所) 令和3年7月13日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年7月12日（月）～令和3年7月18日（日）〔令和3年第28週〕の感染症発生状況

第28週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）RSウイルス感染症 2）感染性胃腸炎 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は7.49人と前週（8.76人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.08人と前週（3.05人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.89人と前週（0.86人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。

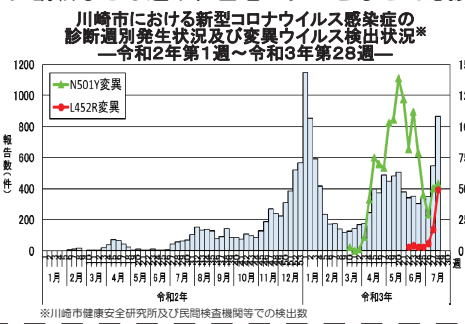


新型コロナウイルス感染症～デルタ株が増加しています！～

川崎市における令和3年第28週（7月12日～18日）の新型コロナウイルス感染症の報告数は865件と、前週の548件から大幅に増加しました。

新型コロナウイルスは変異しやすく、国内でもこれまでに複数の変異ウイルスが報告されています。市内では、5月の時点でほぼ全てが従来株から英国由来のアルファ株に置き換わりました。7月以降は、インド由来のデルタ株が増加し始め、それに伴い報告数も急増しています。

変異ウイルスであっても感染対策は従来と同様ですので、大人数でのスポーツ観戦などは避け、自宅のテレビなどで応援しましょう。



アルファ株とは？

- ・2020年9月に英国で最初に検出
- ・主な変異はN501Y領域
- ・感染性、重症度が従来株より高い
- ・国内におけるアルファ株の割合は約8割（令和3年6月2日時点）

デルタ株とは？

- ・2020年10月にインドで最初に検出
- ・主な変異はL452R領域
- ・アルファ株よりも感染性が高い
- ・ワクチンの効果を弱める可能性あり

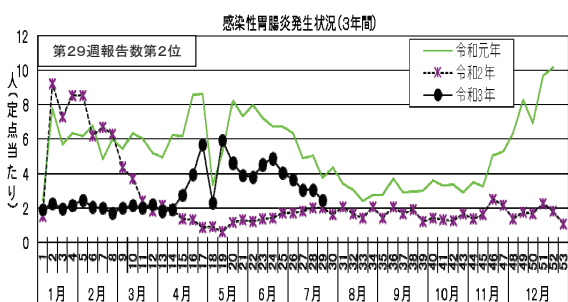
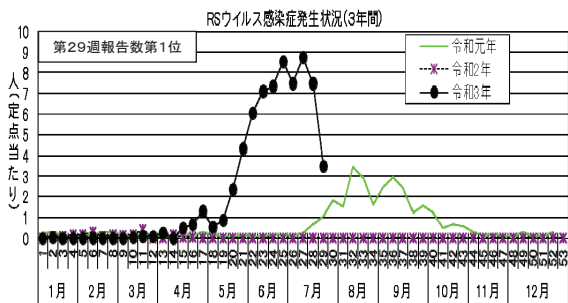
※川崎市健康安全研究所及び民間検査機関等での検出数
川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和3年7月20日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年7月19日（月）～令和3年7月25日（日）〔令和3年第29週〕の感染症発生状況

第29週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）RSウイルス感染症 2）感染性胃腸炎 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は3.51人と前週（7.49人）から減少しましたが、例年よりかなり高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.46人と前週（3.08人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.43人と前週（0.89人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。



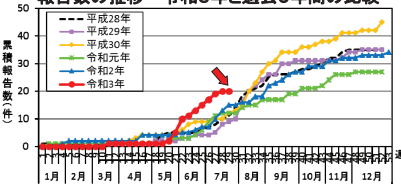
細菌性食中毒に御注意ください！！

今年は、7月中旬以降気温や湿度が高くなり、カンピロバクター、腸管出血性大腸菌（O157、O26など）、黄色ブドウ球菌、腸炎ピブリオなどの細菌を原因とする食中毒が起こりやすくなっています。

川崎市における腸管出血性大腸菌感染症の報告数は、令和3年第29週（7月19日～7月25日）までに計20件と、過去5年間の同時期と比べて最も多い報告数となっており、市内では腸管出血性大腸菌やカンピロバクターを原因とする食中毒事例の発生もみられています。

食中毒を防ぐために、食中毒予防の3原則（つけない・増やさない・やっつける）を徹底しましょう。

川崎市における腸管出血性大腸菌感染症累積報告数の推移～令和3年と過去5年間の比較～



食中毒予防の3原則

つけない

- ✓ 食事の前、排便後などは手洗い、手指消毒を徹底
- ✓ まな板や包丁などは食材によって使い分け



増やさない

- ✓ 生鮮食品などは購入後すぐに冷蔵庫で保管
- ✓ 冷蔵庫は10℃以下、冷凍庫は-15℃以下に維持



やっつける

- ✓ 肉類は中心温度75℃で1分以上加熱
- ✓ まな板や包丁などは洗剤によって使い分け



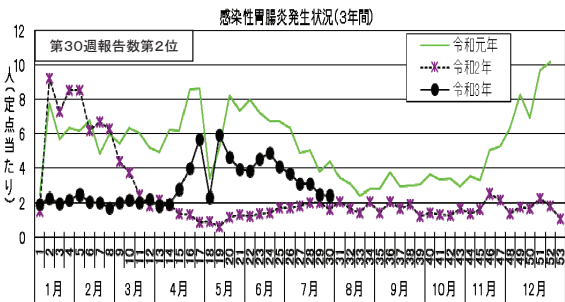
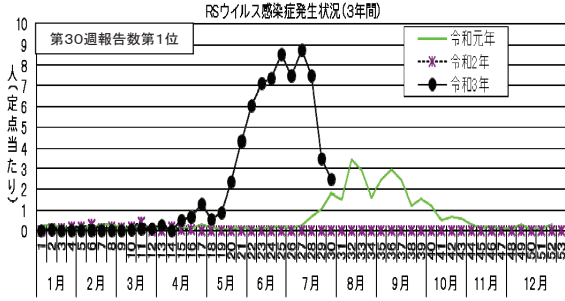
川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250 令和3年7月27日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年7月26日（月）～令和3年8月1日（日）〔令和3年第30週〕の感染症発生状況

第30週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) RSウイルス感染症 2) 感染性胃腸炎 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は2.49人と前週（3.51人）から減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.41人と前週（2.46人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.49人と前週（0.43人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



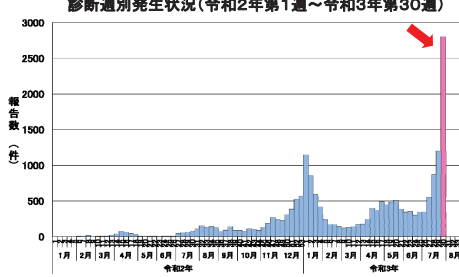
新型コロナウイルス感染症～2週連続過去最多を更新～

川崎市における令和3年第30週（7月26日～8月1日）の新型コロナウイルス感染症の報告数は2800件と、前週の1201件から2倍以上に増加し、2週連続で過去最多を更新しました。

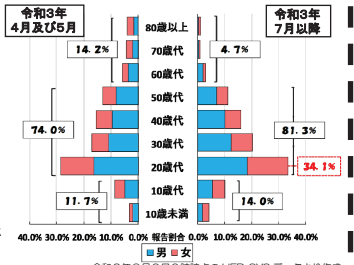
令和3年7月以降の状況を、第4波の初期（令和3年4月及び5月）と比較すると、20～50歳代の報告数の割合は74.0%から81.3%と増加し、特に20歳代が34.1%と最多でした。一方、ワクチン接種が進んでいる60歳以上の割合は14.2%から4.7%と、大幅に減少しました。

ワクチン未接種で、基礎疾患がある方や中高年の方は重症化するリスクが高いため、予防対策の徹底を心がけましょう。

川崎市における新型コロナウイルス感染症の診断週別発生状況（令和2年第1週～令和3年第30週）



川崎市における新型コロナウイルス感染症の年齢階級別発生状況の比較



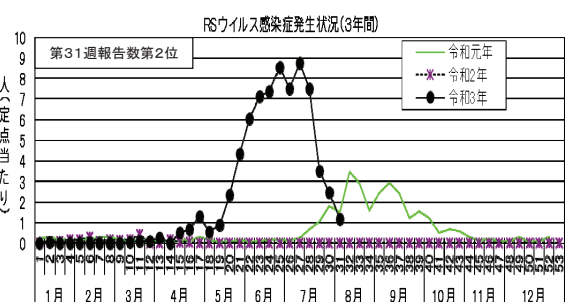
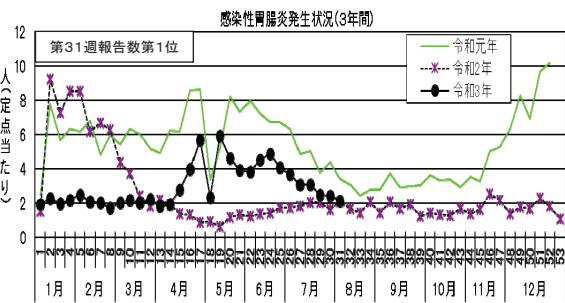
川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250
令和3年8月3日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年8月2日（月）～令和3年8月8日（日）〔令和3年第31週〕の感染症発生状況

第31週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) RSウイルス感染症 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.09人と前週（2.41人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は1.21人と前週（2.49人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.62人と前週（0.49人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。



新型コロナウイルス感染症～飛散防止効果の高いマスクの活用を～

川崎市では、7月下旬から新型コロナウイルス感染症の報告数が急増し、3週連続で過去最多を更新しました。また、首都圏での感染拡大に伴い、令和3年8月2日には神奈川県においても緊急事態宣言が発出されました。

新型コロナウイルス感染症の感染を防ぐためには、マスクの着用、手指衛生、人との距離の確保、換気等の予防対策の徹底が重要です。特にマスクについては、飛散防止効果の高い不織布マスクなどの活用が推奨されています。効果の高いマスクを正しく着用するように心がけてください。

マスクやフェイスシールドの効果（スーパーコンピュータ「富岳」によるシミュレーション結果）

対策方法	なし	マスク		フェイスシールド	マスクシールド
		不織布	布	ウレタン	
吐き出し飛沫量	100%	20%	18～34%	50%	80%
吸い込み飛沫量	100%	30%	55～65%	60～70%	小さな飛沫に対しては効果なし

正しく使おうマスク！

①鼻の形に合わせて ②あご下まで伸ばし顔にすき間をふさぐ **重要！** ③息を吐くときは必ず着用！

会話時は必ず着用！

- ・鼻出しマスク× あごマスク×
- ・着けたら外側は触らない
- ・ひもを持って着脱
- ・品質の確かな、できれば不織布を

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250
令和3年8月11日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年8月9日(月)～令和3年8月15日(日)【令和3年第32週】の感染症発生状況

第32週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) RSウイルス感染症 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.04人と前週(2.09人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は0.42人と前週(1.21人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.38人と前週(0.62人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



新型コロナウイルス感染症～ワクチン接種後もマスクの着用を～

新型コロナウイルスは変異が多く、現在川崎市内では、デルタ株といわれる変異ウイルスが主流となっています。デルタ株は従来のものよりも感染力が強いとされていますが、新型コロナワクチンの有効性は他のワクチンと比べて非常に高く、デルタ株であっても感染するリスクを大きく減らすことができます。市内においても、ワクチン接種が進んでいる高齢者については、6月以降の感染割合が大幅に減少しています。

ワクチン接種完了後に感染する率は低く、万一感染しても無症状や軽症で済むことが多いものの、排出されるウイルス量は接種の有無に関わらず同等との報告もあります。換気の悪い場所や密な場では、必ずマスクを着用しましょう。

川崎市における新型コロナウイルス週別年齢区分別発生状況

週	0～10歳代	10～19歳代	20～30歳代	30～39歳代	40～50歳代	50～59歳代	60歳以上
令和3年第21週 (5月下旬～6月上旬)	12.3%	48.2%	27.9%	11.6%			
令和3年第24週 (6月中旬～下旬)	12.3%	47.9%	31.4%	8.5%			
令和3年第27週 (7月上旬～中旬)	12.6%	53.3%	28.9%	5.1%			
令和3年第30週 (7月下旬～8月上旬)	15.0%	51.7%	28.3%	5.0%			

令和3年8月16日9時時点の集計データより作成

ワクチン接種者と未接種者の違い



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所) (問合せ先) 044-276-8250 令和3年8月17日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年8月16日(月)～令和3年8月22日(日)【令和3年第33週】の感染症発生状況

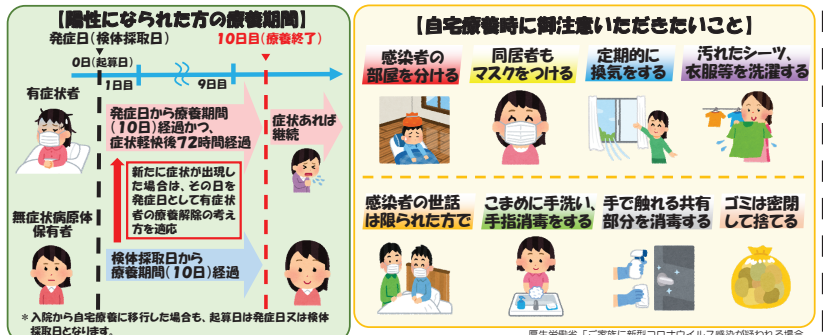
第33週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎・突発性発疹でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.75人と前週(2.30人)から減少し、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.50人と前週(0.37人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。突発性発疹の定点当たり患者報告数は0.50人と前週(0.26人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



新型コロナウイルス感染症～自宅療養の際に気を付けるポイント～

新型コロナウイルス感染症患者の急激な増加に伴い、自宅で療養する方も急増しています。自宅療養の際には感染者を可能な限り隔離した上で、同居者もマスクの着用を必須とし、こまめな手洗いや定期的な換気、共用部分の消毒等の予防対策により感染リスクを減らしましょう。家族については、1回でもワクチン接種をしていると感染を半分に減らすことができるといわれています。

新型コロナウイルス感染症は、発症日から10日間経過し、かつ症状軽快後72時間経過すれば、通常は他者への感染リスクはなくなるとされています。この期間は予防対策の徹底を心がけてください。



厚生労働省「ご家族に新型コロナウイルス感染が疑われる場合 家庭内でご注意いただきたいこと～8つのポイント～」より作成

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター(福祉事務所・保健所支所) (問合せ先) 044-276-8250 令和3年8月24日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年8月23日（月）～令和3年8月29日（日）〔令和3年第34週〕の感染症発生状況

第34週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) RSウイルス感染症 3) 突発性発疹でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.51人と前週（1.70人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は0.59人と前週（0.45人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。突発性発疹の定点当たり患者報告数は0.35人と前週（0.48人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。

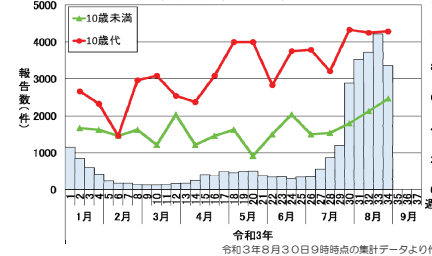


新型コロナウイルス感染症～小児の割合が増加！～

全国的に、7月下旬から新型コロナウイルス感染症患者が急増し、それに伴って小児の感染者の割合も増加しています。小児から大人に感染が広がるケースも増えており、特に3歳以下のお子さんは大人と密着する機会が多いことから、家庭内で大人に感染させるリスクが小児の中では最も高いといわれています。小さなお子さんがいる御家庭では、家庭内感染を防ぐためにも、可能であれば保護者などへのワクチン接種をおすすめします。

また、家庭内で濃厚接触者となった御家族への感染リスクは、初発患者の発症2日前から3日後までが最も高かったとの報告もあります。この期間は特に御注意いただき、感染対策を徹底しましょう。

川崎市における新型コロナウイルス感染症の診断週別発生状況及び年齢階級別割合
—令和3年第1週～第34週—



新型コロナウイルス感染症の時期による家庭内感染リスクの違い



川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250
令和3年8月31日作成

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年8月30日（月）～令和3年9月5日（日）〔令和3年第35週〕の感染症発生状況

第35週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 流行性角結膜炎 3) ヘルパンギーナでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は2.05人と前週（1.51人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.33人と前週（0.22人）から増加しましたが、例年並みのレベルで推移しています。ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は0.27人と前週（0.19人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。

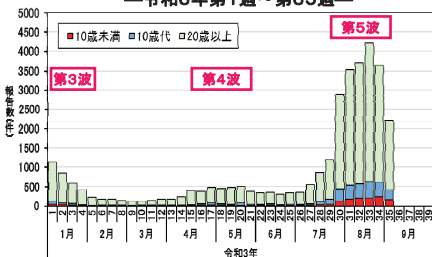


新型コロナウイルス感染症～子どもの感染対策～

新型コロナウイルス感染症の第5波における川崎市の報告数は、7月下旬から急増し毎週3000件を超えていたものの、令和3年第35週（8月30日～9月5日）は2216件と大幅に減少しました。第5波では、これまで報告数の少なかった20歳未満が増えており、特に10歳未満の割合は第31週（8月2日～8月8日）以降5.0%を超え、第35週は7.5%でした。

夏休みが終わり、小・中学校等では授業が再開されました。学校内での感染を防ぎ、子どもたちが安心して学校生活を送ることができるように、手洗いや咳エチケットなどの基本的な感染対策のポイントを今一度確認しましょう。

川崎市における新型コロナウイルス感染症の診断週別発生状況及び年齢階級別発生状況
—令和3年第1週～第35週—



～保育園や学校等における感染対策～

こまめな換気 手洗い・手指消毒 健康チェック

発熱や咳などの風邪症状がさられた際は、無理に登園・登校はせず、医療機関を受診しましょう。

マスクの着用について

- 小学生以上は、身体的距離が十分取れない際に着用
- 呼吸が激しい運動をする際や気温・湿度の高い日はマスクを外す
- 就学前の小児は、基本的にマスクの着用は不要

川崎市 発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所地域まもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）044-276-8250
令和3年9月7日作成